

令和3年度社会福祉振興助成事業

居場所をつくろう

～野外遊び場とオンライン併用室内居場所等で自立を支える若者支援事業～



はじめに … 1

2021年の子どもたち・若者の現状 … 2

居場所の一年 … 3

コロナ禍での活動 … 4

柱立て1: 野外の遊び場・若者居場所事業 … 6

柱立て2: 室内の居場所・ユーススペースとオンライン活用事業 … 8

柱立て3: 若者の社会体験プログラム事業 … 10

柱立て4: スタッフ養成のスキルアップ研修や先行事例の視察 … 11

柱立て5: 若者支援団体の情報交換やネットワークの強化

柱立て6: 報告書の作成・報告会の開催 … 13

行政へのアプローチ・今年度を振り返り … 14

居場所をつくろう

はじめに

居場所ってなんだろう？

この3年間、ずっと考えてきました。

「場所だけでも開けていて欲しい」

「開いているっていうことが大事」

と若者たちは言います。

そのままの自分で居られる場所。

どこかの場所でも、だれかの隣でも、どこであっても、

大切なのはいつもそこにある、ということ。

この3年間でこの場所は、

居られる場所から居たい場所になりました。

そしてこの場所だけでなく、

この場所にいるあなた自身も、

誰かにとっての居場所なんだということ

感じてくれていたらいいなと思っています。

今までも、これからも、

「居場所はここにあるよ」と言えるように、

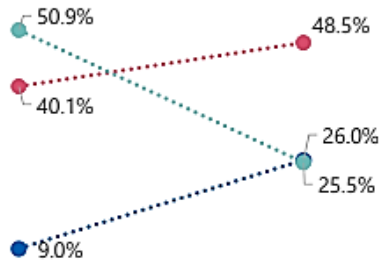
場を開き続ける。

それが私たち大人にできることかもしれません。

2021年の子ども達・若者の現状

いまだ続くコロナ禍の中で、若者や子どもたちは日々を過ごしています。ストレスのかかる生活の中で、彼らが安心して過ごせる居場所の確保は必要不可欠です。しかし、感染症流行を受け、どの居場所も感染症拡大前とは違った形での活動を余儀なくされています。中でも子ども食堂の多くは食材配布等の食支援に重きを置いた活動にシフトしているところが多く、居場所としての機能は果たせていないところが多いのが現状です。一刻も早い対策が必要な食支援と同様に、若者たちの居場所の確保も必要不可欠です。

子ども食堂の活動の継続状況



感染拡大直後 (2020.3-5) 調査時 (2021.1頃)

- 感染拡大前と同様の活動を継続
- 感染拡大前と異なる活動を継続
- 活動を休止

※付録2の集計結果とは異なり、無効回答を除いて分析。

子どもたちの健全な育ちのためには、地域の中に、子どもが安心してすごすることができる「子どもの居場所」が必要と考えており、子ども食堂は居場所づくりの重要な拠点であると認識されている。コロナ禍において活動を休止した子ども食堂は50.9%、2021年1月頃には休止している団体は25.5%までに減少したが、多くの団体が感染症拡大前とは異なる活動形態をとっている。異なる活動形態とは主に弁当や食材の配布であり、居場所としての機能を十分に果たすものではない。感染症拡大前と同様の活動を行っている団体は2021年1月頃でも全体の26.0%にとどまっている。

資料出典：
新型コロナウイルス感染症流行下における
子ども食堂の運営実態の把握とその効果の検証のための研究
(令和2年度厚生労働科学特別研究事業)

【お知らせ】どんぐりの森再開について
四街道市での感染症拡大を受け、閉園していたどんぐりの森のプレーパーク開催を再開します。プレーパークの開催を再開するにあたり、改めて感染症拡大防止へのご協力、よろしくお願いします。
・受付簿への記入
・検温、手指の消毒
・湯沸かし、焼き芋等を含めた調理はできません。
・食べ物のシェアはご遠慮下さい。
・昼休み(12時～13時)を取ります。
その間、焚き火、遊具の使用、物の貸出はできません。
・混雑時には状況に応じて遊具等を調整します。
密を避けるため、ご了承下さい。

みなさん元気でしたか？
なかじは元気やまもりです。
それにしてもこの一ヶ月長かったね。
休みの間にも元気にしているかなあとか、みんな今、何してるんだろう...とかいろいろと思いながら、森で皆さんがまた遊びに来るための準備をして待ちました。長い休みが明けていよいよ再開します！
またみんなで思いっきり遊びたいね。
なかじ的にはどろんこ遊びが恋しいです。
こんなときだからこそ、もっと集まって自由に思いっきり遊びたいよね。
でもなんて言ったらいいのか分からないけど今はちょっときびしいのです...。
でもね、今までどおりのどんぐりの森にもどる日がきつときます。そのためにみなさんに協力してほしいのです。これからの時期はたき火が楽しい季節だけど食べ物のごめんなさい。
たき火はできます。いっぱいマキを割りました。
いろいろときゅうくつなこともあってほんとごめんね。
森もワーカーたちも皆さんが来るのを楽しみに待っています。
早く顔が見たいな。
待ってるよ！

(2021/9/29Facebook ページより)



子どもや若者たちがありのままの自分で居られる、安心して居られる、休息できる場所そして環境を守り、続けていく事が大人ができる事かなと。子どもが悩んだ時や困ったとき、あの人なら話してみようかなとふと頭の中に思い浮かぶ大人でありたい。子どもからの SOS をキャッチできる大人が増えることが今必要なんだと思う。

(プレイワーカー 中島良介)

居場所の一年

令和3年度も前年度同様コロナ禍での活動となりました。大人も子どもも若者たちもストレスを感じながらの一年ではありましたが、新たなことへの挑戦もできた一年でした。これまで以上に若者たちの成長を感じた一年でもあり、居場所としての手ごたえを感じた一年でもありました。



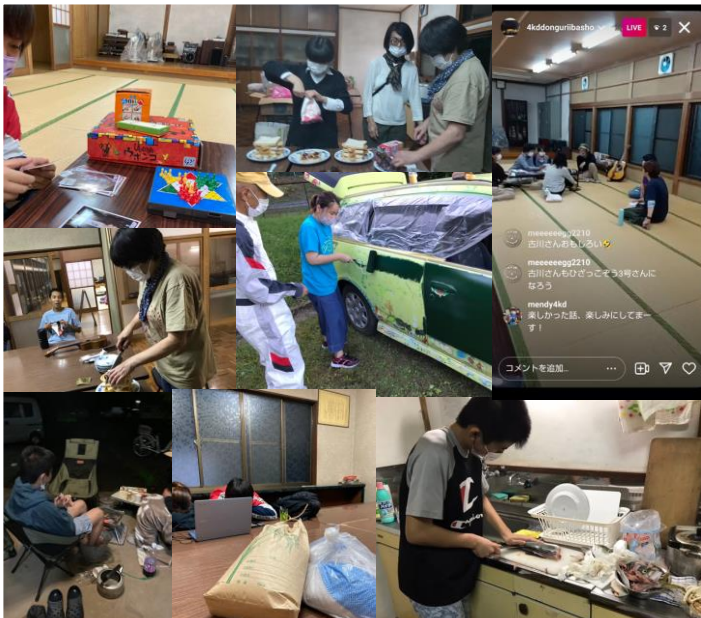
若者たちの様子(春)

新年度を迎え、居場所にやってくるメンバーにも新たな顔が加わりました。年齢や経験の違う人と出会い、コミュニケーションをとりながらよい時間を過ごしていました。



若者たちの様子(秋)

緊急事態宣言発令に伴い休園。居場所の様子を確認しに来る若者たち。若者たちは食べ物がないでも、場所だけでも開けておいて欲しいと言います。人とのつながり、つながれる場を求めています。



【開催概要】

・野外の居場所 / 毎月第1・3土曜日

場所 四街道プレーパークどんぐりの森
(千葉県四街道市和良比 690)

開催日数 20日 / 参加者数 延べ1533人

※2022年3月5日現在/調査日以降1回開催予定
/9月緊急事態宣言下でのスタッフ待機2回を除く

・室内の居場所 / 第1土曜日、第2~金曜日

場所 和良比やすらぎの家
(千葉県四街道市和良比 691)

開催日数 45日 / 参加者数 延べ326人

※2022年3月5日現在/調査日以降3回開催予定
/9月緊急事態宣言下でのスタッフ待機2回を除く

若者たちの様子(夏)

野外で思い切り遊ぶ、自分の専門分野を活かした活動に挑戦するなどアクティブな季節。誕生日を祝ったり、若者同士の関係も少しずつできてきました。何気ない会話でも盛り上がりられました。



若者たちの様子(冬)

大人との関係も居場所での過ごし方も少しずつ変わってきました。準備や片付け等も自主的に行うなど成長を感じました。自分の興味があることを準備して持ってくることも。人への気遣いも嬉しい。



コロナ禍での活動

「居場所はいつも開いてほしい」

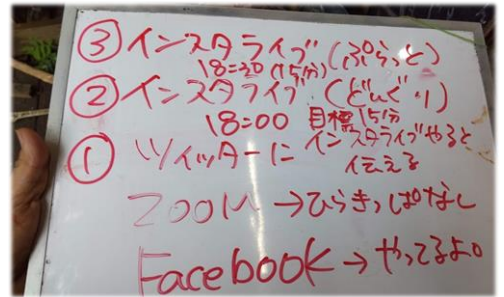
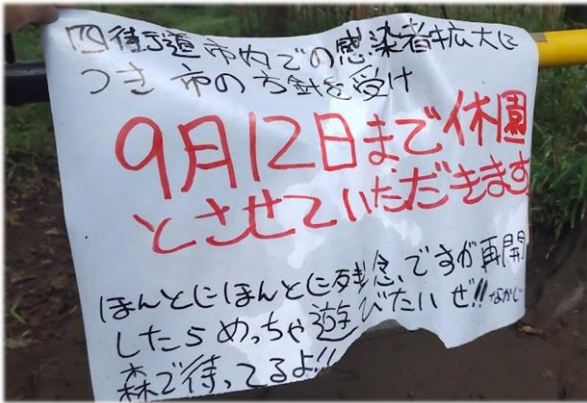
いつでも誰かに会える居場所の役割

「食べ物とか、別になくてもいいから場所だけでも開けて欲しい」と9月の緊急事態宣言発令前、夏休みの終わりにボランティアに来ていた大学生がそう言って帰って行きました。

緊急事態宣言下で通常通りに開催できなくても、居場所は変わらずにそこにあることを伝えようと交換ノートでの交流やSNSを使った配信を積極的に行いました。会えなくてもつながれることが心の支えになりました。



#学校ムリでもここあるよキャンペーンに参加



交換ノートでのやり取り。こんな時だからこそできる事を見つけてやってみよう。

「オンライン開催だけだよ」と決めて、若者にもそう伝えていましたが、結果として毎回居場所には若者たちがいました。「オンラインだとわかってたけど、いるかなと思って」とやってきて、終わりの時間までそこにいるかな?と思って来た時にそこにいること、いるかな?と思える場所があることがとても大切なんだと感じました。



若者の力を借りてのライブ配信

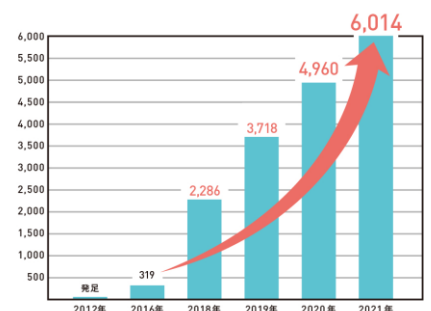


【千葉県内の居場所の現状】

こども食堂の箇所数は2020年より1,047箇所増え、6,007箇所となった。昨年度2019~2020年の1,242箇所増に次いで過去3番目の増加数でした。こども食堂の実態として、「多世代交流拠点としてのこども食堂」が挙げられ、また、コロナ禍での活動として、屋内での共食が(回答時期2021/10/15-12/15でも)一定程度続けられている半面、食の配布・宅配という新しい方法によって食を通じた活動が広がっていることが示唆されました。こども食堂は、しばしば「食べられない子が行くところ」「子ども専用食堂」と言われてきましたが、今回の調査結果からは、多世代交流や地域づくり・まちづくりも多くのこども食堂の基本的性格になっていることがわかりました。

(NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ 全国箇所数調査2021より)

この調査での都道府県別箇所数・充足率で千葉県は校区実施率 全国22位、人口比では全国42位となっており、こども食堂が十分に確保できているとは言い難い現状です。



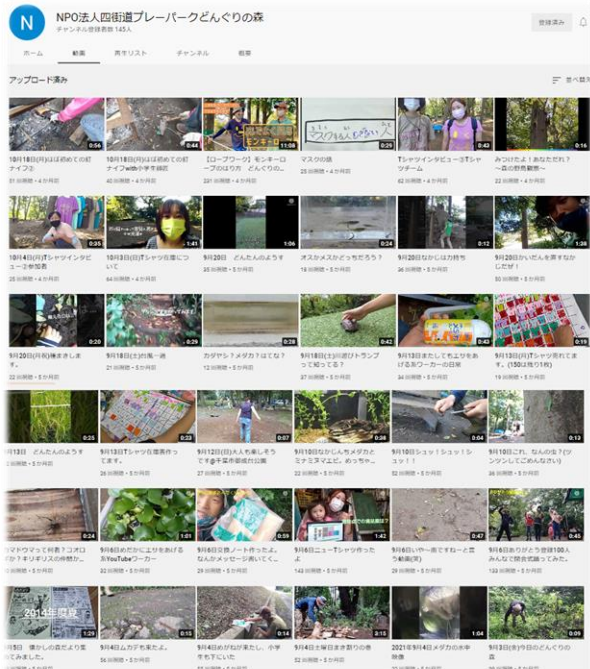
Youtube 動画配信

「変わらず元気してるよ」を伝えよう

閉園中、どうしているのか気になっていた若者や子どもたちがいました。令和元年度の台風被害での休園時、令和2年度の自粛期間中の経験から、若者たちや子どもたちもその期間中の居場所の様子を気にしていることを知りました。

変わらずにここにあること、元気になっていることを伝えたいと動画を配信しました。

動画配信開始時の予想を大きく超えるスピードでチャンネル登録者数は増加し、居場所への関心の高さを再確認しました。



NoRain, NoRainbow 森 T シャツプロジェクト

つながりを目に見える形に。お揃いっていいよね！

コロナ禍で会いたくても会えない、会いに行きたくても行けない日々の中、「それでもつながってるよ」を目に見える形にたくて、世代を超えてみんなで着られるお揃いの T シャツを作りました。



休園中も楽しいことを考えます！
 イエプレもやりたいね！そして新企画も！
 不安なときはメッセージ待ってます。
 私たちもお休命中発信します。
 みんな我慢で辛い、
 森で遊びたいのはみんな一緒。
 自分も大事、みんなも大事。
 体は離れていてもハートは密でいよう。
 まずは自分の心も体も大切に。
 我慢しきれなくなったら
 その時は思い出してね。
 私たちは森で待ってます。
 みんなで気をつけて、また会おう！



(2021/9/1 Facebook ページより)



- つか: 新しくニューTシャツを作ることになりました
- めぐ: イエー~~~~ーイ!
- Ｍｄｄｄ: やったねー!
- つか: 今日はプレイワーカー兼デザイナーのめぐちゃんに話を聴きたいと思います。どうしてTシャツが欲しかったの？
- めぐ: なんか、みんなでそろっていいよね
- つか: デザインの意味は？
- めぐ: プレーカーに荷物と夢を乗せて、みんなが住んでるところに遊びを届けるよ、っていう意味
- Ｍｄｄｄ: いいねー
- つか: 現時点での満足度は？
- めぐ: 最高
- Ｍｄｄｄ: 最高だよ、間違いない
- つか: このTシャツに期待することはありますか？
- めぐ: みんなで仲間って感じがいいよね。
- Ｍｄｄｄ: いい
- つか: 若者も応援したい
- めぐ: うん、応援したい
- Ｍｄｄｄ: 世代を超えて家でも森(居場所)を感じられるっていいよね。
- めぐ: いい
- つか: いい。つながってる
- めぐ: うん、森を着よう
- つか: 着よう!
- Ｍｄｄｄ: よし!!

Tシャツチームインタビューより
 プレイワーカー 菅めぐみ・塚本容子・関口笑子

柱立て！

野外の遊び場、若者居場所事業

プレーパークは赤ちゃんからシニアまで、老若男女問わず過ごせるみんなの居場所です。年齢も住む場所も趣味も違う様々な人と出会い、ともに過ごす中で、自分のペースで人と関わりつながりを作っていくことができます。自己実現の場でもある遊び場は若者たちが安心してやりたいことに挑戦できる場でもあります。



やってみたいことを世代を超えて共有



学校や家とは違うつながり



時々ふと思い出したように中高生や若者もやってくる。



プレーパークは「自分の責任で自由に遊ぶ」「ケガと弁当自分もち」の遊び場



場づくりも一緒に

四街道プレーパークどんぐりの森は、四街道駅から徒歩15分のところにあります。四街道駅、意外とアクセスが良いので、四街道遠い!!って先入観を持たずに、最寄駅からどのくらいかかるのか検索してみてください。ちなみに私は家から1時間くらいで着きます！

子どもの過ごす環境(学校、公園、学童、スポーツ教室など)では大体どこでも、大人たちはまず「安全」を第一に考えて多くのルールを作ります。とっても大事なことです。でも、ルールが多すぎるとちょっとしんどくないですか？

「あれやったら怒られるからやめよう」「本当はこうしたいけど、先生いるからやめよう」ってなっちゃいます。私も小学生の頃、やっていいか悪いかの判断は大人の顔色で決めてました。(今もかなあ笑)

プレーパークでは、できるだけ子どもがやりたいことを思った通りにできるように、禁止事項をなるべく減らしています。

「危険」を、

- ①命に関わる、取り除かなければならない危険(=ハザード)
- ②成長の過程で必要な、自ら挑戦する危険(=リスク)

の2つに分けて考えていて、

②のリスクは残したい!!って考えるのがプレーパークです。

(私が今までみてきた子どもと関わる場所は、大体どこも、問題が起こらないように、リスクを0にするための取り組み、ルール作りをしていました。それがダメってことじゃないと思うけど、なかなか難しいところですね。)

あるプレイワーカーさんが、「リスクを減らすことの最大のリスクは、子どもの成長の機会を失わせること」と言っていました。私はまだまだ勉強中で本質は掴めてませんが、この言葉に全部詰まってるんじゃないかなーって思います。

緊急事態宣言下で、コロナ急増して、こんな時にプレーパークに行っても良いのか、と思う方もいるかもしれません。私も思いますし、罪悪感もあります。運営側も開催をやめれば感染リスク0ですが、それでもリスクをとって、開催する意義について、こう書いてありました。

『コロナは自粛などの行動制限があり不自由な点も多かった反面、目に見えない大事な事、いつもの暮らしがあることのありがたさ、会って話すことの温かさ、自然の中に生かされている自分たちの存在などに気づかされました。そして、何よりこの瞬間も子ども達の心と体は育っていることを実感。この時期に出会えた子ども達、まだ出会えていない子ども達にも思いを馳せながら、「いつでもここにいるよ」「思いっきり遊ぼう」のメッセージを届けたいと思います。



居場所に若者たちがいるということ

若者たちと一緒に過ごす大人たちからのメッセージ

プレーパークは赤ちゃんから大人まで多世代の方がそれぞれの時間を過ごしています。子供達は遊びの天才。世代の違いを楽しんで遊びを発展させていくのが上手!!

中でも大人でもない子どもでもない、若者が大好き。小学4年生の娘はプレーパークに行く前から「今日は〇〇兄、いるかな?」「今日、〇〇〇がいたら話したいことあるんだあ」といつの間にもどんぐりの森の楽しみの一つに。

子どもたちと若者が楽しそうに遊ぶ風景は2歳に満たない末娘にも伝わって、2歳末娘は自ら誘いに行ったり輪に入ったり。遊びの輪がどんどん広がるのが本当に面白い!

遊ぶだけでなく、大人にはなんだか言いづらい相談も若者には話せちゃう。焚き火を見ながら、話す。それだけで特別な時間。子どもたちにとって若者と過ごす時間はとても貴重で特別な経験になっています。

親として、どんぐりの森に素敵な時間をもたらしてくれる若者たちには本当に感謝しています。同時に、プレーパークでの時間に魅力を感じて自ら選んで来てくれる若者達の感性は素晴らしいなあと感動。大人の私にも良い影響を与えてくれています。

本気で遊んでくれている分、時に悩みや葛藤も生じる事もあるかも知れない。でも、そんな姿がとても尊く感じて仕方がない。公園でもない、学校でもない、商業施設でもない、心で繋がっている居場所で本気の体当たりで過ごしている若者たち。彼らがどんな大人になるのか、おばちゃんの内はとても楽しみで仕方がないです。

楽しみが一つ増えました!ありがとうございます!そしてこれからもよろしくお願ひします。(小学生・未就園児保護者 K)

ここは今までの私の人生では見たこともない場所だった。現実社会のルールとは違う、“本能”で考えて“遊ぶ”場所。

その中で自然と身についていく「予測」「関係」「自信」。

はじめは何をして遊んでいいのかわからない子たちも、少しずつ自分の知らなかった能力が目覚めてきて、毎回行くごとに出来なかったことが出来ることへ変化していく。ここで育った子どもたちが、この先どんな大人に成長していくかとても楽しみだ。

こんな経験をさせてもらえる場所はとても少ないだろう。この場所に出会えて私は本当に幸せだ。

若者たちへ!

その真っ直ぐな眼差しで、どんどん社会へ貢献して行ってください。

そしてこの場所にはともに過ごした仲間が、いつでもいるからね!

(未就園児保護者 J)

居られる場所。

まずは居心地が悪くなくて居られるということ。

閉めない。

開き続けることが大事だということをこの3年で感じています。

自分らしくそのままなのは簡単なことではないし、本人が望んでいようといまいと、若者自身の体だったり、気持ちだったり、まわりの環境は日々変わっていく中で、変わらない場所、戻ってくる場所、

思い出せる場所があることの大切さを感じました。

なにかあった時に思い出せるような、あたたかい思い出をひとつでもふたつでも持って大人になって欲しい。

大人なはずの私自身もまだまだ不完全で、いろいろあるけど、なんとかやっています。

居てくれてありがとう。(プレイワーカー 関口笑子)



室内の居場所・ユーススペース事業

「若者にとって居心地のいい場所、自分のペースで人と出会い交流できる場所」を目指し作ってきた居場所も3年目になりました。

今年度は若者が開催時間から現れ、自分の好きなこと、やりたいことを実現して過ごし、時に交流を楽しみながら居場所時間を有効に過ごしているように見受けられました。毎週ほとんど欠かさずに訪れる若者たちからは、この居場所をととても楽しみにしている様子がうかがえました。

そして終了時には自然に場の片付けを手伝ってくれるようになり、共にこの場を作る一員となっています。



ごろごろしたり、調理を手伝ったり、協力してみんなで何かをやってみたり。安心して過ごせる場でそれぞれのペースで過ごす時間。

常連の子どもたちにとっては、甘えられる場になってるなと思いました。小さい頃から自分を知ってくれている安心して自分を出せる大人がいる。外からみている時より中に入って見て、その必要性を強く感じました。異年齢のかかわりもいいな。と思います。中学生にとっては、ちょっと先をいく若者のいろんな人生をみて感じることもあるだろうし、若者にとってもいろんな年代の大人と接することは、両者にとっていいなと思いました。私も若者の姿に学びをもらいました。学校ではない場で、役に立つ、活躍できる場、認められる機会もあるといいのかなーと思いました。

(スタッフ 大和久智子)

この3年間遠巻きに見てきて、毎週のやすらぎ利用の連絡調整、早番の方の鍵の受取・準備や買い物、遅番の方の関わり片付け……など、若者と直接的・間接的にする多くの人の助け・関わりがあったから続けてこれたし、少しずつ形になってきたのかな？と思います。

(スタッフ 金原久美子)



入り口の前で七輪で火をおこす所から始まります。
 七輪をいじりながら椅子を置いて、ゆっくりまったりしていると若者たちがふらっとやってきて、隣に椅子を置いて好きな歌手やゲーム話をしたり、無言でゲームをしている子も居たり。
 将来の夢の話になったときに中学生の男の子が調理師になりたいという話をしてくれました。
 誕生日のお祝いにケーキを一緒に作ったときに「ケーキを初めて作る」と嬉しそうに飾り付けをしてくれました。
 いつも外の七輪の周りに居る子が何気なく「あまり知らない人がいる輪に入れたい」と話してくれました。部屋の中に入るのは怖い。
 それでも毎回来て七輪の周りでお互いに気を使わないで話す。
 最初は親に行けと言われてしぶしぶだったけど来てみたら楽しくて今は開催日を楽しみにしていると話してくれた子もいました。
 自分が好きなコーヒーを入れるために家から道具を持ってきて入れていることもあった。
 その子は人と徐々に慣れていって、大人とも話したり室内で他の子たちとゲームをするようになっていたりという感じ。
 他の人たちと関わりを持たなかった子が話をしたり遊ぶようになった。
 来ている青年たちの変化や成長。
 片付けもお願いしなくてもやってくれたこと。
 その場がとにかく安心できる場所であること。
 人は人を必要とする。

(プレイワーカー 中島良介)



変わらない場所

●NPO法人四街道プレーパークとんてりぬ
<https://dangurinomori.net/>
 ●中島家のTwitter(おらっす)
<https://www.facebook.com/yasugai001>



森ノトを遊んでいる若者どもたちと寄り添う中島さん

「今までは、遊びに来る子どもたちも、遊びに来る大人も、遊びに来る場所も、遊びに来る時間もおおむね決まっていた。でも、コロナ禍になってからは、遊びに来る子どもたちも、遊びに来る大人も、遊びに来る場所も、遊びに来る時間もおおむね決まらなくなった。でも、遊びに来る場所だけは、変わらずにいます。」

地域と向き合う団体にエールを

コロナ禍の先行きはまだまだ不透明ですが、地域が抱える課題はますます難しいものになっています。
 そんななか、四街道には地域の人や仲間と向き合う団体がたくさん存在していました。
 以前半信半疑で伝えた「まちづくり」や「まちづくり」などの新しいツールを利用した活動を始めたり、メンバー同士の結束をさらに深めることでこの難題を乗り越えようとする姿も、ますます地域が抱える課題に立ち向かっていることに、守るべきことを実感しています。

その一方で、コロナ禍だからこそ、人と関わることで、互いを支え合っている姿も、今では、ますます目撃されるようになりました。それは、心からエールを送りたいと思います。

「遊びに来る場所」は、遊びに来る子どもたちも、遊びに来る大人も、遊びに来る場所も、遊びに来る時間もおおむね決まっていた。でも、コロナ禍になってからは、遊びに来る子どもたちも、遊びに来る大人も、遊びに来る場所も、遊びに来る時間もおおむね決まらなくなった。でも、遊びに来る場所だけは、変わらずにいます。



遊ばない時の様子

四街道市みんなで地域づくりセンター広報誌「みんなで」で紹介されました

私が居場所に関わって感じたことはサードスペースがある地域は安心だということです。
 ないよりあるほうが断然いいです。

居場所を開催する中で、コロナ禍で続ける続けられないの議論もしました。

若者の成長を感じることが出来ました。

我が子の子育てとは違う子ども、若者と接することで、「一人の人として」接して、彼らの別な一面を見させてもらいました。

結果、サードスペースの重要性を実感しています。

理想は地域に溶け込む居場所。そこへ行けば聴いてくれる人がいる。それだけで人って救われるものだと思います。

(プレイワーカー 小林晶子)

若者の社会体験プログラム事業

今年度も若者たち発信の企画を実施しました。お誕生日会のような小さなイベントだけでなく、得意分野や興味を生かした企画、地域の中で人と関わるような企画も実施しました。

令和3年 夏休み期間

専門分野・興味を活かした大学生企画

- ① 8月17日
大学生ボランティアによる救急講習
- ② 8月27日撮影/10月12日公開
大学生ボランティアとプレイワーカーによる
ロープワーク動画
- ③ 9月13日、18日、20日、10月2日
大学生ボランティアによるインスタライブ
「子どものことばの発達について考える」



若者企画・編集の動画 ↓



企画を大人にプレゼン。告知やライブ配信で自分の考えを伝える。

令和3年 10月30日

若者企画 NIGHT★どんぐり

若者から秋にデイキャンプをやりたいとの企画が持ち上がりました。日時、場所、参加費、参加募集はどうするか、未成年の参加にはどう対応するかなど 頭を悩ませ、募集用紙・承諾書を顔見知りのスタッフにコツを教えてもらいながら作成しました。メニューや買い出し品目、タイムスケジュールなども考え、当日は多くの協力を得て無事実行することができました。

NIGHT★どんぐり

10月30日(土) 15:00~21:00

どんぐりの森で開催!!

どんぐりの森インスタ (メッセージ)

または森にいるワーカーに声をかけて

申し込んでも!

中学生から参加可能!!

※未成年は保護者の承諾書が必要になります

先着15名様なのでお早め!!!

BBQと花火をやるよ!!

みんなでいつもとは違う

どんぐりの森を満喫しませんか?

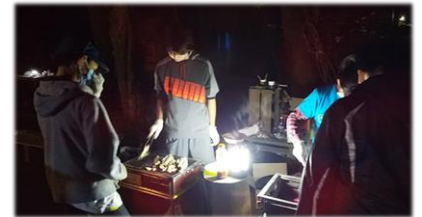
参加費 中学生500円 大人1000円

持ち物 参加費未成年の方は承諾書

皿と箸(お弁当箱でもいいよ)

感染症対策のご協力をお願いします。

若者作成のチラシ。参加者との交流も楽しみました。



令和3年 11月23日

つながるマルシェ@ウエルシア鹿渡店

ウエルシヤマルシェで常連の若者が手伝ってくれて、はじめは、緊張してたんだけど、だんだんお客さんと話ができるようになったり、笑顔が見られるようになったりする姿に感動し、あとから、居場所スタッフに「あの時から彼が変わって、部屋にも入ってくるようになったし、しゃべるようになったのよ」と聞いて、うれしかったです。学校ではない場で、役に立つ、活躍できる場、認められる機会もあるといいのかなーと思いました。

(スタッフ 大和久智子)



「中高生若者の居場所ぶらっと」として出店

令和3年度

どんぐりの森のお米どんたん

若者たちとのコメ作りも3年目。コロナ禍で餅つきができないため、うるち米を植えました。田植え、稲刈り、千歯こぎでの脱穀。そして、かまどでの炊飯。手作りのお米の味は格別!地域の人の交流もありました。



コロナ禍ではありましたが、感染症対策をしながら収穫したお米をみんなでいただきました。

スタッフ養成のスキルアップ研修や先行事例の視察

1. 田奈高校ぴっかりカフェ視察

田奈高校では、昼休みと放課後に図書室を開放していました。

図書室には一般書籍だけではなく漫画や高価な写真集などジャンルを問わずありとあらゆる書籍が混在していました。

当日の放課後の高校生の参加者は10名程。1、2年生は修学旅行や遠足で不在でした。

特に印象的だったのは、卒業後も生徒と繋がっていること。

バイトとインターンを組み合わせたパイターンを経験させること。

アルバイトをするまでの援助をしていることは、「ぶらっと」では経験したことがないことでした。

ソーシャルスクールワーカー (SSC) や、ソーシャルワーカー (SC) の存在は今後の活動にはとても参考になると思いました。

(プレイワーカー 小林晶子)

(事前のミーティングより)

- ・高校生たちは近況報告や愚痴や弱音を吐きに来たりと、ピっかり Café を利用している。
- ・心を満たしたい子は食べ物が無くても来る。
- ・ボードゲームがきっかけでその場にいる皆が交流したりもある。
- ・ボランティアさんは毎回 7、8人、年間300人くらい。自転車で来られるくらいの人々が理想。
- ・司書さんとも連携しながら活動している。
- ・こちらがしたいことと求められていることを常に探りながら動いている。食?メンタル?
- ・文化的な体験をしてもらうことが基本だが、どうしても活動の中で問題を発見してしまう。それを自分たちで解決するか、カウンセラーや他の相談機関につなげるか、その仕組みを作ってスーパーバイズしていくことで学校側も安心。
- ・安心安全な場所を作って、他に頼れるところを増やしていく。
- ・つなげ先をどう持つか、ハブになれるか。
- ・周囲に支えてくれる大人を増やす。(アルバイト先に頼りだりもする)
- ・社会ではつたない高校生の言葉が伝わらないことも、通訳をしたりもする。
- ・たくさんの人に会ってもらいたい。ダメな大人も、キラキラな大人もいていい。

令和3年11月25日
ボランティアとして参加させていただきました。
ぴっかりカフェは神奈川県田奈高校の図書室でNPO 法人パノラマが開いています。
事前のミーティングで、ぴっかりカフェの開催状況や関わる大人の役割などをお聞きました。



2. 千葉県冒険遊び場ネットワーク プレイワーカー研修参加 3. フォーラム「子どもの権利と遊び」参加

スタッフは、「子どもの発達」や「リスク管理」、「遊び研究」の研修への参加。

2月24日フォーラム「子どもの権利と遊び」に参加。安心して過ごせること、参加することは、子どもの権利であることを学び、権利が保障される場づくりの必要性を実感しました。



千葉県冒険遊び場ネットワークプレイワーカー研修



フォーラム「子どもの権利と遊び」

若者支援団体の情報交換やネットワークの強化

市内子ども支援団体ネットワークでは、若者支援の団体との情報交換を行い、参加する若者達の様子や、大人の関わりについて語りました。また、地域からの米や味噌などの食材の寄付も譲り合うなど、開催を共に支え合いました。また千葉県子ども食堂ネットワークの会議にも出席しました。

千葉県子ども食堂ネットワーク会議参加

子ども食堂と、若者のフリースペースとは違うものだと思っていましたが、共通する部分もありました。千葉県子ども食堂連絡会の方の言葉、「支援ではなく、交流的関係性なんだ」ということや、「最初はおせっかいから、見えてくるもの(子どもの背景とか)を拾って、各所につなげていく」こともやっているとのこと子どもは「一緒に場を作る担い手」。その考え方を見習いたいと思いました。

(スタッフ 今川都也子)

居場所と子ども食堂ってどうなんだろうかと思ってたけど、子ども食堂の人たちが居場所という言葉が結構出たのが印象的でぶらっと目指すところは一緒なんだろうなと感じました。子どもにとって必要なのよ。ひとつ目が食べること。ふたつ目が寝ること。みつ目が遊ぶこと。よつ目が人から必要とされているという気持ち、大切にされているという気持ち。このキーワードを聞いて、ああ、やっぱりプレーパーク、ぶらっとって全部できてるわ、とこれから続けていくのための確信ができました。

(プレイワーカー 中島良介)



報告書の作成・報告会開催

令和3年度活動報告会

令和4年3月16日実施予定
年間の若者支援の取り組みをまとめ、地域や関係機関に報告することで、若者支援の理解を深めます。



令和元年度、令和2年度及び本年度報告書

行政へのアプローチ

昨年のヒアリングに引き続き、今年度は四街道市地域福祉活動計画策定に関わりました。
地域活動計画は、向こう5年間の施策の指針になるものです。居場所作りや仕組み作りについて、子どもだけでなく、若者に対する計画を取り入れるよう提案し、計画に盛り込むことができました。
これまでの若者支援の報告書を策定委員に配布。若者も地域の一人として暮らしていること、その若者たちが安心して過ごせる場があることが、地域福祉につながることを理解を深めました。



四街道市地域福祉計画(令和4年度～7年度)より抜粋

今年度を振り返り

若者支援の取り組みとして始まった遊び場と室内のフリースペース。取り組みも3年目になりました。
今年度は、「野外遊び場とオンライン併用室内居場所等で自立を支える若者支援事業」として取り組みました。
参加する若者にとっても、そして関わる大人にとっても、変化のあった3年間。さらに新型コロナウイルス感染症蔓延での活動自粛の波は、さらに私たちに考える機会を与えてくれました。

そんな時、私たちがどうしたいかで考えるのではなく、若者はどうしたいかで考えてきました。思い浮かぶのは、彼らの顔や、和室で寝転ぶ姿、外で七輪を囲む後ろ姿。言葉で伝えきれない思いは、その表情や態度で感じ取れました。
「自己受容」「自己肯定感」「自己有用感」言葉は硬くても、居場所を続ける中で、様々なシーンの中で、それは育ってきたのだと思います。若者にも、そしてありがたいことに大人にも。
子どもから大人へ育つ、若者という一瞬の時期。多感で、迷いながらも、人と出会い、頼り頼られつつ自立していく姿を目の当たりにしました。
何より彼らは、ひとりひとり純粋で温かく、もろく、そして強い。
「支える」なんておこがましい。大人は環境や社会を整え、彼らが自ら育つ機会を見つけ出していくのではないのでしょうか。それこそ、若者の育つ権利の保障だと思います。

報告書のタイトルを考えた時に、スタッフから出てきたのは「居場所の持つ力はすごい」「居場所のまなざし」「居場所にあるありがとう」そして「居場所を続けよう」「居場所をつくろう」でした。
それは、自分自身への言葉でもあり、若者への語りかけでもあり、社会への発信でもありました。
報告書が多くの方に読んでもらえるとうれしいです。

子ども家庭庁設立に関する意見交換会に参加

第1回目は若者のフリースペースから、Zoom を使った子ども若者の意見交換会に参加。
初めのオンライン、大人との意見交換会で、緊張しながらも、自分の意見を言葉にして伝えた勇気は素晴らしかったです。なかなか言えない思いを伝えられる、子どもの声が社会に反映される、子ども家庭庁であることが大人の役目です。

第2回目は、対面とオンラインでの、野田聖子子ども政策担当大臣との意見交換会に中学生が参加しました。

「今日はこのような場所で話す機会をくださりありがとうございます。子ども家庭庁ができるときいつでも期待しています。僕はプレーパークという遊び場で小さい頃からたくさん遊んできました。そこで子どもも大人も関係なくたくさんの友だちを作ってきました。最近僕が住んでいる四街道でも自然が少なくなってきた、自然の中で遊ぶことが少なくなってきました。プレーパークでは木に登ったり、焚火をしたりして遊んでいるけど、どんぐりの森も土曜日の開催ができなくなるかもしれません。僕はどんぐりの森がずっとあって欲しいと思っています。遊び場だけじゃなくて、ぶらっとって中高生の居場所もやっていて、そこはどんぐりの森の隣にあるやすらぎの家ってところで、遊ぶってうか、静かにも過ごせる場所で、どんぐりの森は僕だけじゃなくてみんなに必要な場所だと思う。つらいときにも行ける。こういう場所は四街道だけじゃなくて、他のところにもあった方がいい。どうやったら増えるのか、どうやったら続けていけるのか、一緒に考えて欲しいです。最後まできてくれてありがとうございました。」

(中1 男子)



居場所をつくろう

その場所に行けば、話を聞いてくれる大人がいて、
ふと思い出したときになんとなく会いたくなる人がいる居場所。

密集を避けるということが今の流れになっているけれど、やっぱり人は人を求めている。
不思議なもので人が増えてきたからと思って場所を変えてみると、
その人たちはみんなこっちにくる。
何を話すわけでもないんだけどやっぱり人を求めている。
それも信頼できる人の存在。

いろいろな大人がいて、いろいろな若者たちがいて、
いろいろな生き方をしている人がその場所で出会い、
普段で出会わないような人とも出会い話を聞いて共感したり憧れたり。

何気ない話の中で将来の不安や進路、仕事の悩みをすることもある。
悩みの解決にならないかもしれないけど話ができる相手が出て、
聞いてくれる大人が出てすっきりすることもあるのかな。
この場所ではとにかく安心できるように。

1年目は手探りでこれでいいのかと迷った年。
2年目でようやく何となく方向性が見えてきたような感じ。
3年目でこれでいいと確信できるようになった。
続けること、続けていくことの大切さ。
こういう場所が今、必要になり作ったところですぐに人は集まらない。
やっぱり時間がかかること。そして続けること。
この先も開き続けて、待ちたい。
ふと思い出したときに行ける場所を守り続けることが今できること。

開き続けて若者たちの居場所を作って待ちたい。

(プレイワーカー 中島良介)

前よりも自分よりも年下の参加者が増え、見守ったり、
アドバイスをしたりすることが多くなりました。自分の目
には間違いのように見えても、本人にとっては正しいも
のだったことがありました。
物の見方も、感じ方も、コミュニケーションの取り方も、
誰かが「これは正しい、これは正しくない」と評価するも
のではなく、それぞれのやり方があります。
一見当たり前のように感じますが、その当たり前
を忘れてしまって、自分が正解だと思いこんでしまいが
ちです。
幅広い年齢層と異なる考え方をを持った人たちが集まる
この場所だからこそ、それを感じる機会がとても多かつ
たです。
(社会人2年目)





発行 NPO 法人四街道プレーパークどんぐりの森

〒284-0044 千葉県四街道市和良比 690

E-mail donchan@dongurinomori.net

Tel 090-6197-6735

Website <https://dongurinomori.net>

